

超域文化科学紀要

2020/25



interdisciplinary cultural studies
the university of tokyo / komaba

超 域 文 化 科 学 紀 要

第 25 号 — 2020

目次

『トリスタン』における原典言及 ——maere/âventiure/istôrjeを巡って.....	7
一條 麻美子	

「知る」ことと「信じる」こと ——崔載瑞の国民文学論における「信念」の位相	21
金 景彩	

人造人間と創造の多元性 ——ハンス・ハインツ・エーヴェルス『アルラウネ』における人工授精科学と「思想」について	39
相馬 尚之	

ヨハン・マッテゾンにおけるオペラ擁護の二重戦略 ——「技術」の意味づけに注目して	59
岡野 宏	

苦悩する芸術家 ——ラフカディオ・ハーン『中国怪談集』の「瓷神譚」について	79
川澄 亜岐子	

「急がないこと」の美德 ——『指輪物語』のエントと中世主義……………	101
川野 芽生	

プッチール像とアリヴェー像……………	123
田村 隆	

「東洋」の一部としてのペルシア ——『文様集成』の編纂と伊東忠太……………	133
モハッラミプール・ザヘラ	

「民俗」概念考 ——柳田國男が一国民俗学を唱えるとき……………	153
岩本 通弥	

追悼式典における記憶と沈黙 ——1984年シク教徒虐殺をめぐって……………	183
岡本 優加子	

オン／オフグリッドの家庭生活からエネルギー概念を再考する 205
北川 真紀

「テン窪大櫓」の表象に見る「魂」の救済可能性
——大江健三郎『懐かしい年への手紙』、『燃えあがる緑の木』の比較分析を通して [右1] 244
菊間 晴子

2019 年度 教員実績 245
執筆者紹介 287
英文目次 289
「超域文化科学紀要」次号原稿募集について 291
編集後記 292